

## 小中学校（概要）（※小中学校の校長、教務主任からの主な回答をまとめたもの）

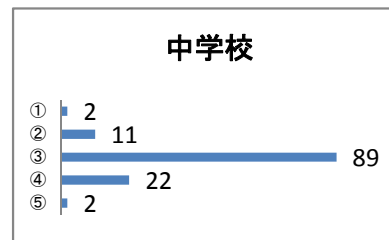
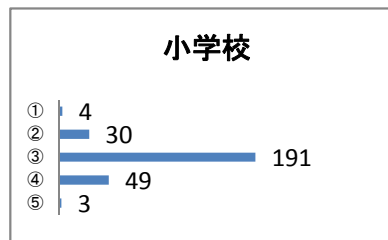
【学校評価を活用した、学校の課題に直結した目標や取組の設定と短期の改善の徹底】

○重点目標を「3つ」以下としている学校が8割、「2つ」以下に絞り込み重点化・焦点化している学校も1割程度ある。  
 ○ほとんどの学校で達成指標は、数値化するなど検証可能なものになっているが、それに比べ、取組指標は、具体的で検証可能な内容に「ある程度している」とする学校がかなりあり、取組指標をより一層具体的で検証可能な内容にする必要があると考えられる。  
 ○ほとんどの学校でPDCAサイクルを年間3回以上のスパンで行っている。  
 ○重点目標や達成指標、重点的取組内容の設定及び検証・改善は、校長、教頭と共に教務主任が中心となって進めている。  
 ○PDCAサイクルにより学校改善を進める上で特に必要なことは、「学校の課題と重点目標を一層一致させる」ことや「PDCAサイクルを活用した学校改善の重要性について、教職員の意識を高める」ことだと校長は考えている。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

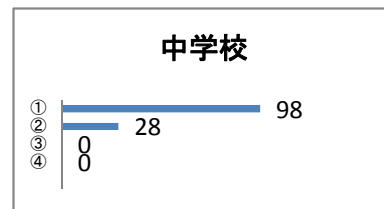
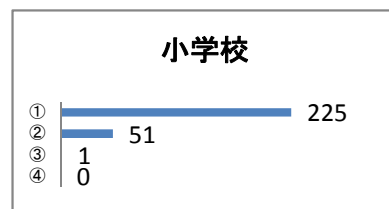
○学校の重点目標は、いくつありますか。

①	1つ
②	2つ
③	3つ
④	4つ
⑤	5つ以上



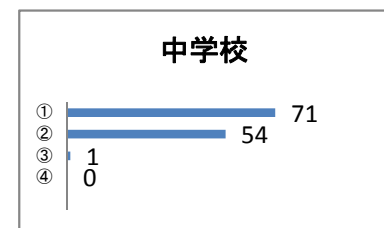
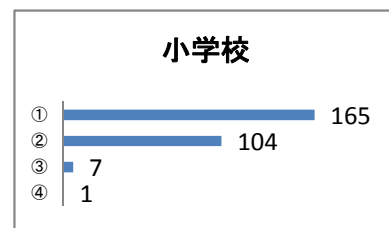
○達成指標は、数値化するなど、検証可能なものになっていますか。

①	している
②	ある程度している
③	あまりしていない
④	していない



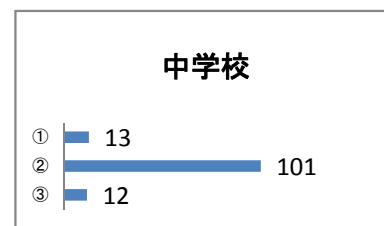
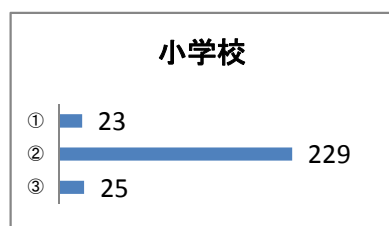
○取組指標は、「誰が」「何を」「どれくらいの頻度で」という、具体的で検証可能な内容になっていますか。

①	している
②	ある程度している
③	あまりしていない
④	していない



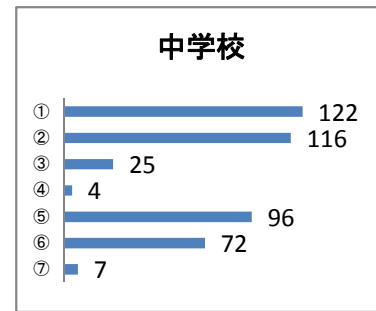
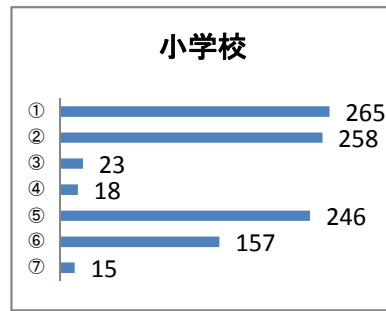
○重点目標達成に向けたPDCAサイクルを、どのようなスパンで行っていますか。

①	年間3回未満
②	年間3回
③	年間4回以上



○重点目標や達成指標、重点的取組内容の設定及び検証・改善は、誰が中心に進めていますか。  
※複数回答可

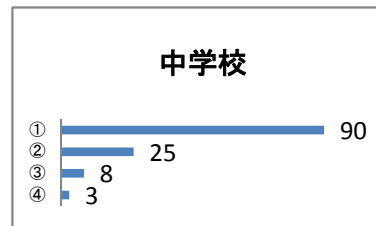
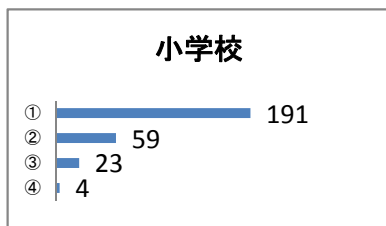
①	校長
②	教頭
③	主幹教諭
④	指導教諭
⑤	教務主任
⑥	その他の主任
⑦	その他



○重点目標や達成指標、重点的取組内容の設定を活用したPDCAサイクルにより、学校改善を進める上で、以下のことが必要だと思いますか。

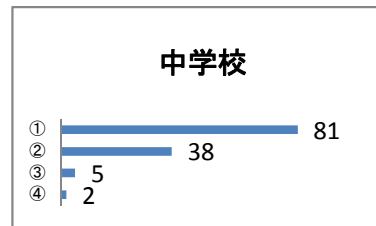
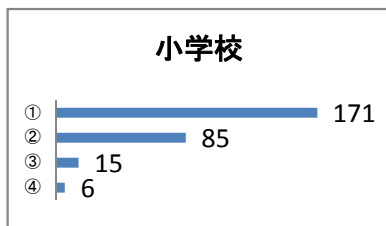
・学校の課題と重点目標を一層一致させる必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・PDCAサイクルを活用した学校改善の重要性について、教職員の意識を高める必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



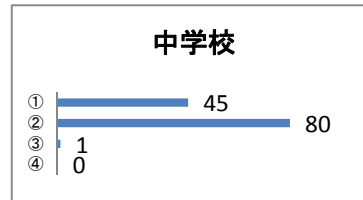
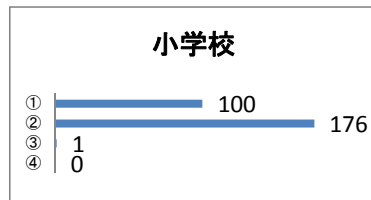
【教職員評価システムに基づく、全教職員への目標の徹底と個人目標への連鎖の徹底】

○過半数の学校は、学校の重点目標、各分掌の目標、各教職員の自己目標の連動は、「ある程度連動している」としている。  
 ○ほとんどの校長が各教職員の自己目標についての指導・助言を行っている。  
 ○教務主任による、自らの分掌に属する教職員の目標設定への関わりは、学校によって差が大きい。  
 ○教職員評価システムを活用するに当たって特に必要なことは、「教職員評価システムを機能させるため、学校の重点目標や達成指標、重点的取組内容を、より適切に設定する」ことや「学校の重点目標や達成指標、重点的取組内容を教職員に一層浸透させる」ことだと校長は考えている。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

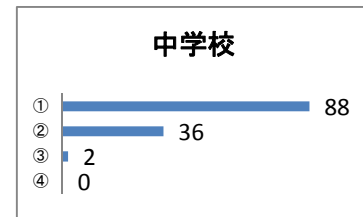
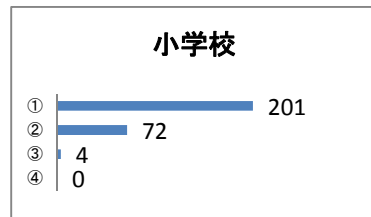
○学校の重点目標、各分掌等の目標、各教職員の自己目標がどれくらい連動していると思いますか。

①	しっかり連動している
②	ある程度連動している
③	あまり連動していない
④	連動していない



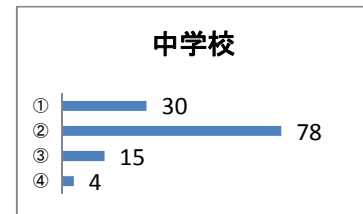
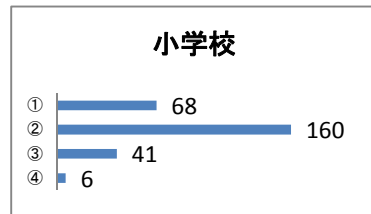
○目標管理面談や中間申告の際、必要に応じて修正させるなど、各教職員の自己目標について、指導・助言を行っていますか。

①	行っている
②	ある程度行っている
③	あまり行っていない
④	行っていない



○分掌に所属する教職員の目標設定に対して、指導・助言を行っていますか。(教務主任)

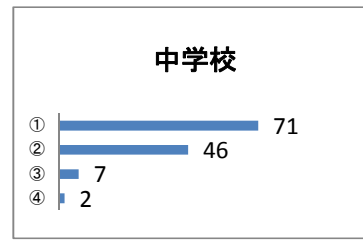
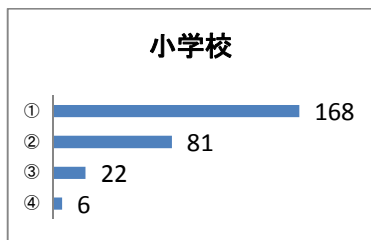
①	行っている
②	ある程度行っている
③	あまり行っていない
④	行っていない



○教職員評価システムを活用するに当たって、以下のことが必要だと思いますか。

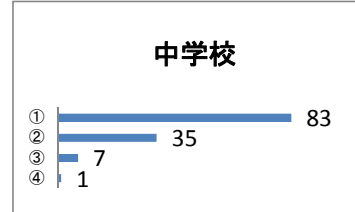
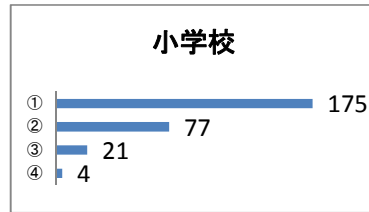
・教職員評価システムを機能させるため、学校の重点目標や達成指標、重点的取組内容を、より適切に設定する必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・学校の重点目標や達成指標、重点的取組内容を教職員に一層浸透させる必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



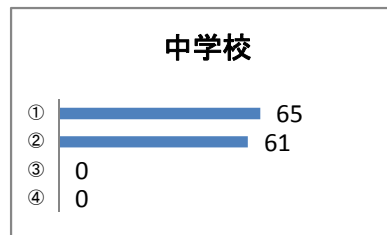
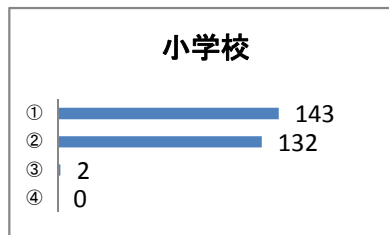
【主要主任等の役割の一層の充実と主任手当の趣旨の徹底】

○校長は、主要主任等が、与えられた役割を少なくともある程度果たしていると考えている。  
 ○教務主任は、自らの役割はかなり明確であり、その役割をある程度果たしていると考えている。また、ほとんどの教務主任が職務にやりがいを感じている。  
 ○ほとんどの教務主任は、「芯の通った学校組織」の取組を通じて、教務主任の重要性を認識するようになったと感じており、また、8割の教務主任は業務が多くなったと感じている。  
 ○主要主任等が学校の運営方針や運営委員会での協議事項等を教職員に周知する機会や、教職員の考えを集約の上管理職に伝える機会は、ほとんどの学校で「よくある」「時々ある」とされており、ミドルアップダウンマネジメントがある程度定着してきたと考えられる。  
 ○平成24年からの「芯の通った学校組織」の取組による主要主任等の意識の変化については、「学校運営への参画意識が高まった」、「校長の学校方針を理解し、他の教職員に周知する意識が高まった」、「自らの分掌等を取りまとめ、推進する意識が高まった」とする学校が多い。一方、「自らの分掌等の教職員に指導・助言を行う意識が高まった」とする学校が少ない。このことから、主要主任等は、学校運営への参画意識が高まってはいるが、自らの分掌等の教職員に主体的に指導・助言を行うところまでは必ずしも至っていないのではないかと考えられる。  
 ○主要主任等の役割の一層の充実を図る上で特に必要なことは、「主要主任等が担う役割を校長としてよりの確に指示することや「主要主任等が役割を果たせるよう、業務の割り振りを一層工夫することだと校長は考えている。  
 ○主任手当の趣旨の徹底を図る上で特に必要なことは、「教育委員会から職員団体に対し、組合員に主任手当の拠出を求めないよう、一層の要請を行うことや「主任制度自体の一層の定着」だと校長は考えている。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

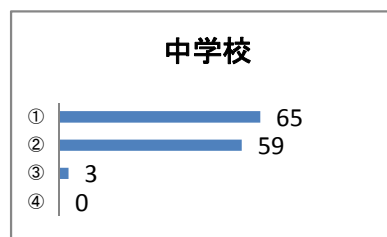
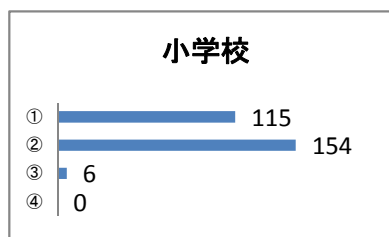
○主要主任等は、与えられた役割を果たしていますか。

①	果たしている
②	ある程度果たしている
③	あまり果たせていない
④	果たせていない



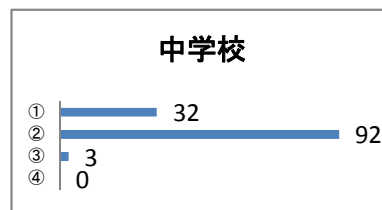
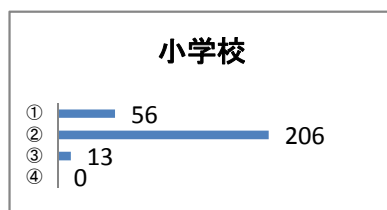
○自校で教務主任として担う役割は明確ですか。(教務主任)

①	明確である
②	ある程度明確である
③	あまり明確ではない
④	明確でない



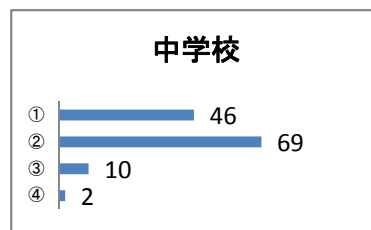
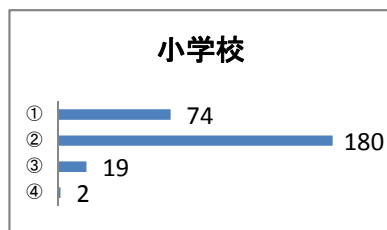
○教務主任としての役割を果たせていると思いますか。(教務主任)

①	果たせている
②	ある程度果たせている
③	あまり果たせていない
④	果たせていない



○教務主任としての職務にやりがいを感じていますか。(教務主任)

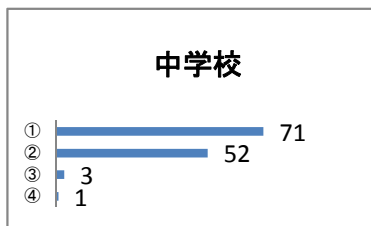
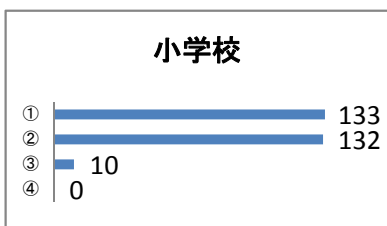
①	とても感じている
②	ある程度感じている
③	あまり感じていない
④	感じていない



○平成24年からの「芯の通った学校組織」の取組を通じて、自身の意識に以下のような変化があったと思いますか。

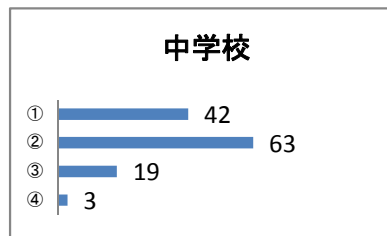
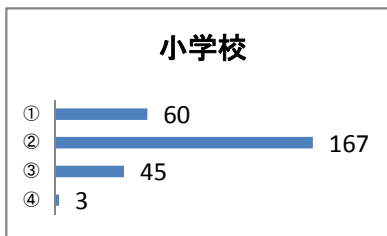
・教務主任の重要性を認識するようになった。(教務主任)

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



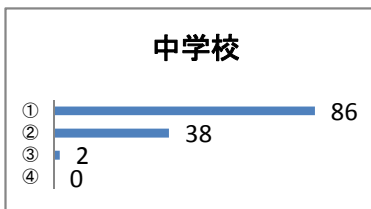
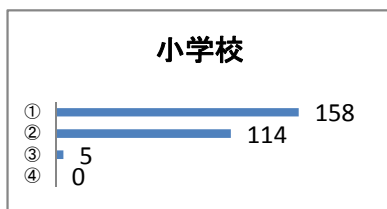
・業務が多くなり、負担を感じるようになった。(教務主任)

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



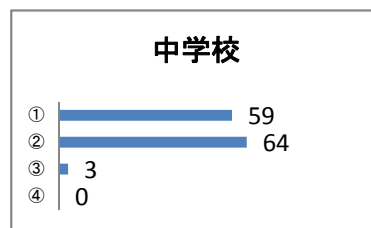
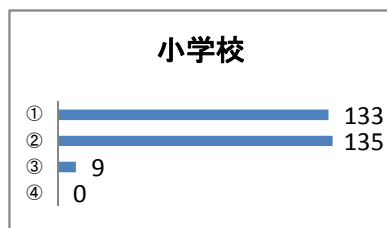
○主要主任等が学校の運営方針や運営委員会での協議事項等を、教職員に周知する機会がありますか。

①	よくある
②	時々ある
③	あまりない
④	ない



○主要主任等が教職員の考えを集約の上、管理職に伝える機会がありますか。

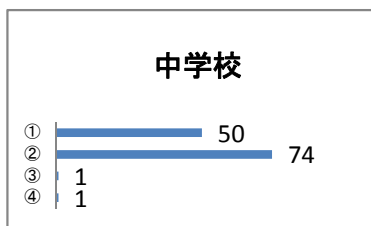
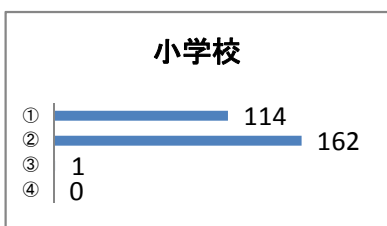
①	よくある
②	時々ある
③	あまりない
④	ない



○平成24年からの「芯の通った学校組織」の取組を通じて、主要主任等の意識に以下のような変化があったと思いますか。

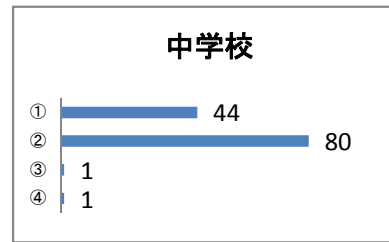
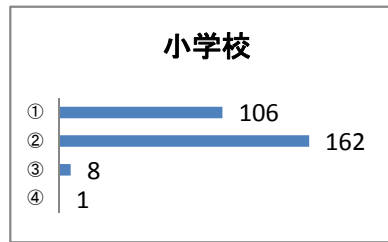
・学校運営への参画意識が高まった。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



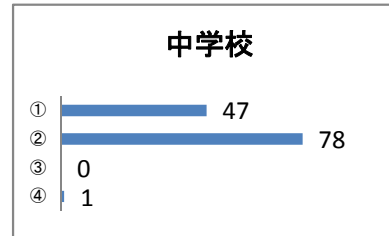
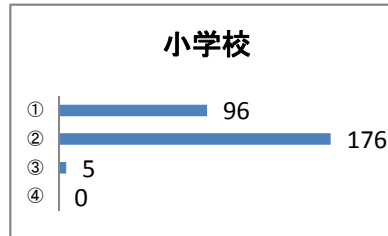
・校長の学校運営方針を理解し、他の教職員に周知する意識が高まった。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



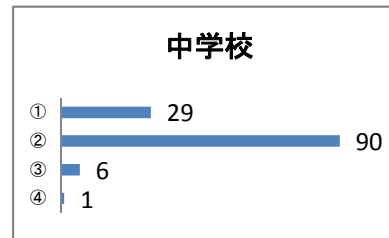
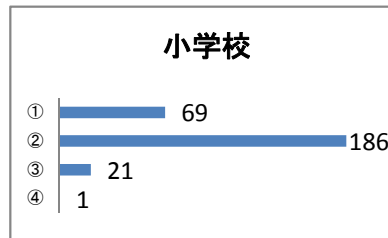
・自らの分掌等をとりまとめ、推進する意識が高まった。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・自らの分掌等の教職員に指導・助言を行う意識が高まった。

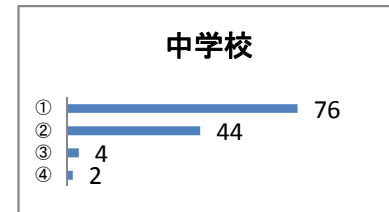
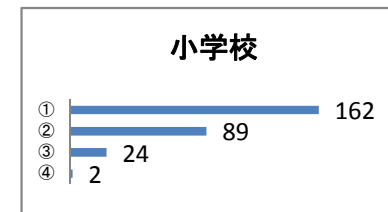
①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



○主要主任等の役割の一層の充実を図る上で、以下のことが必要だと思いますか。

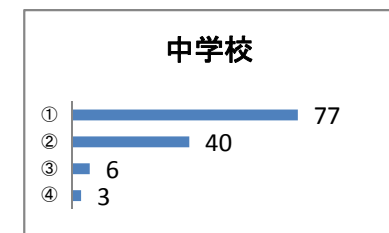
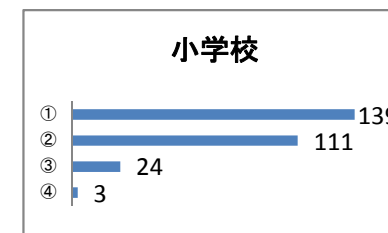
・主要主任等が担う役割を校長としてよりの確に指示する必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・主要主任等が役割を果たせるよう、業務の割り振りを一層工夫する必要がある。

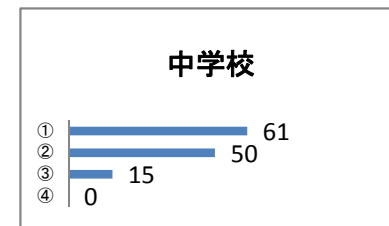
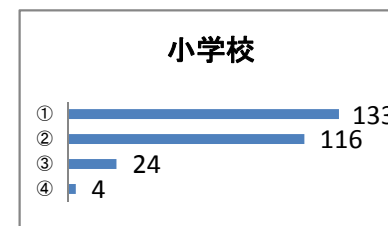
①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



○主任手当の趣旨の徹底を図る上で、以下のことが必要だと思いますか。

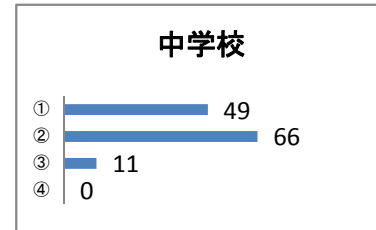
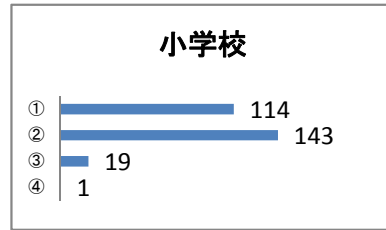
・教育委員会から職員団体に対し、組合員に主任手当の拠出を求めないよう、一層の要請を行う必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・主任制度自体の一層の定着が必要である。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない





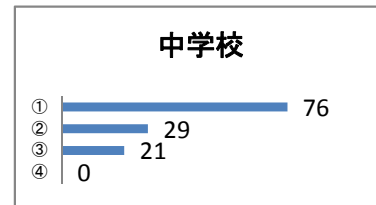
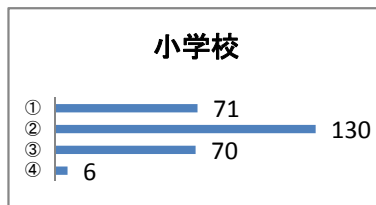
【企画立案の場としての運営委員会の活用推進の徹底】

○運営委員会の開催状況は、小学校では「2週間に1回程度」、中学校では「週1回」が最も多く、1回当たりの所要時間は、「30分から1時間」が最も多い。  
 ○職員会議はの開催状況は、「月1回」が最も多く、1回当たりの所要時間は小学校では「30分～1時間」が最も多く、中学校では「1時間～1時間半」が最も多い。  
 ○運営委員会の議題は、半数近くの学校が「次の回の議題を示している」としているが、「年間・学期を通して示している」学校もかなりある。  
 ○運営委員会の司会は、教務主任が行っている学校が最も多く、次いで教頭となっている。  
 ○4分の3の教務主任が、運営委員会に提案を行うことが、毎回、或いは、しばしばある。  
 ○平成25年度からの運営委員会の設置により、大半の学校で職員会議の開催回数及び1回の所要時間が、縮減されている。特に開催回数は、約5割の学校で半分以下になっている(1割程度の学校では4分の1以下)。また、「迅速な意思決定を行いやすくなった」こと、「校長がリーダーシップを発揮しやすくなった」こと、「主要主任等の学校運営への参画意識が高まった」ことなどの効果が表れている。  
 ○運営委員会や職員会議について特に必要なことは、「充実した運営委員会となるよう議題をもっと早めに示す」ことや「運営委員会で主要主任等が提案する機会を増やす」と校長は考えている。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

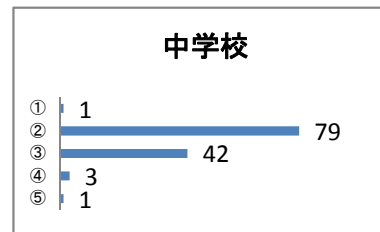
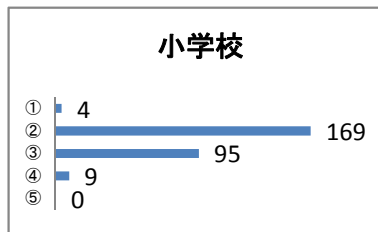
○運営委員会は、どの程度の頻度で開催していますか。

①	週1回
②	2週に1回程度
③	月1回
④	その他



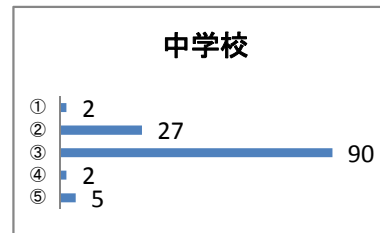
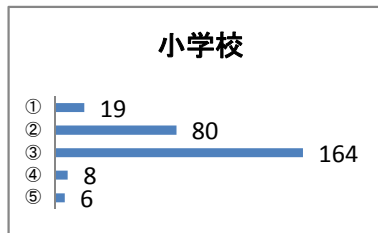
○運営委員会1回当たりの所要時間は、どれくらいですか。

①	30分未満
②	30分～1時間
③	1時間～1時間半
④	1時間半～2時間
⑤	2時間以上



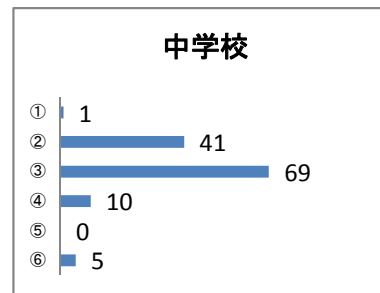
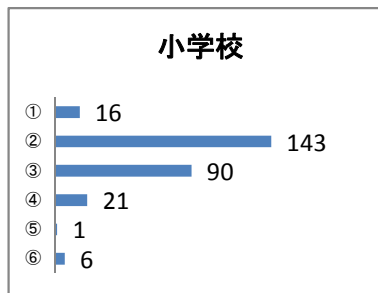
○職員会議は、どの程度の頻度で開催していますか。

①	週1回
②	2週に1回程度
③	月1回
④	その他
⑤	職員会議は設けていない



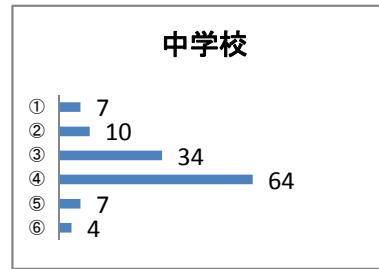
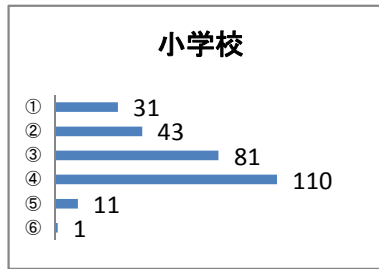
○職員会議1回当たりの所要時間は、どれくらいですか。

①	30分未満
②	30分～1時間
③	1時間～1時間半
④	1時間半～2時間
⑤	2時間以上
⑥	職員会議は設けていない



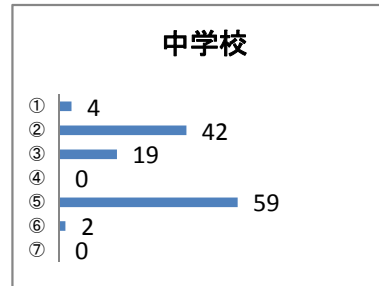
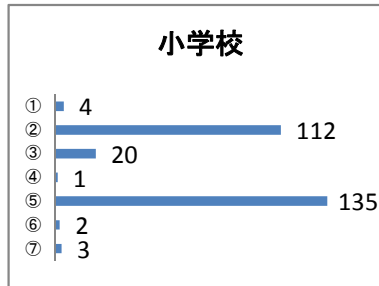
○運営委員会で扱う議題や議題案を予め示していますか。

①	年間を通して示している
②	学期を通して示している
③	毎月示している
④	次の回の議題を示している
⑤	その他
⑥	示していない



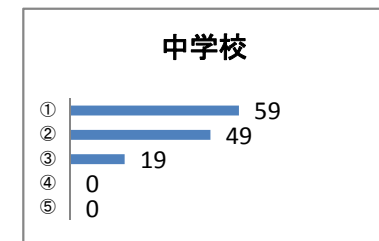
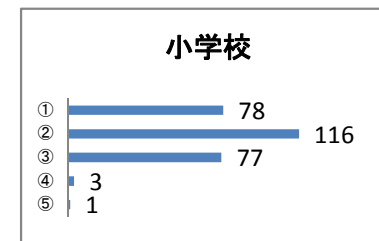
○運営委員会は誰が司会をしていますか。

①	校長
②	教頭
③	主幹教諭
④	指導教諭
⑤	教務主任
⑥	その他の主任
⑦	その他



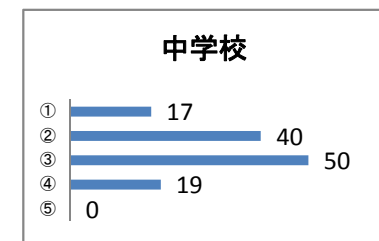
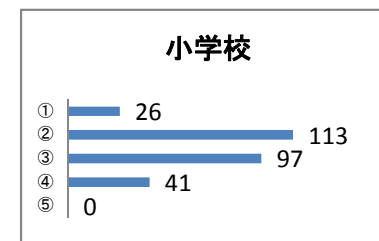
○運営委員会に、教務主任として提案を行うことがありますか。(教務主任)

①	毎回ある
②	しばしばある
③	時々ある
④	ほとんどない
⑤	ない



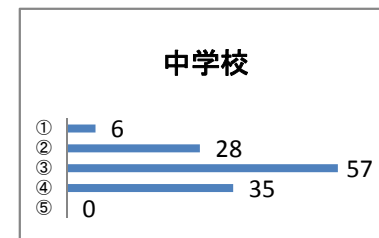
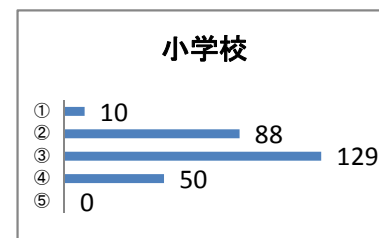
○平成25年度からの運営委員会の設置前後で、職員会議の開催回数に変化はありましたか。

①	1/4以下になった
②	半分以下になった
③	半分以下までではないが減った
④	ほとんど変わらない
⑤	増えた



○平成25年度からの運営委員会の設置前後で、職員会議の1回の所要時間に変化はありましたか。

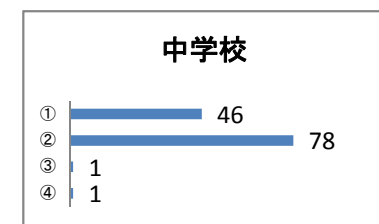
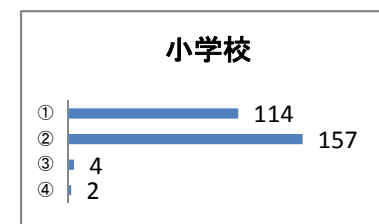
①	1/4以下になった
②	半分以下になった
③	半分以下までではないが減った
④	ほとんど変わらない
⑤	増えた



○運営委員会を設けたことにより、以下の様な変化があったと思いますか。

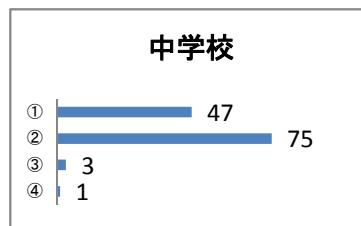
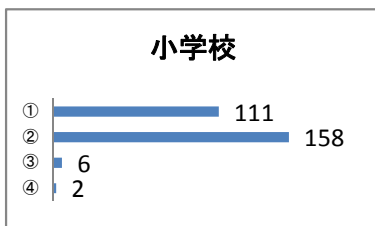
・迅速な意思決定を行いやすくなった。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



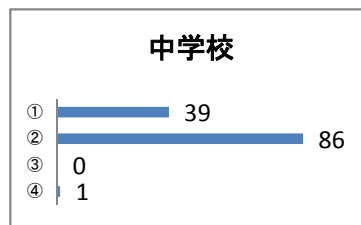
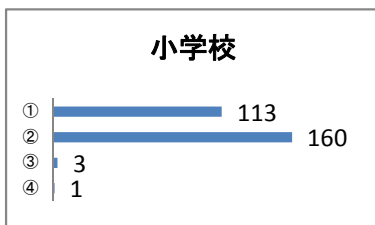
・校長としてのリーダーシップを発揮しやすくなった。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・主要主任等の学校運営への参画意識が高まった。

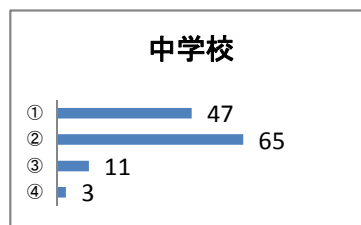
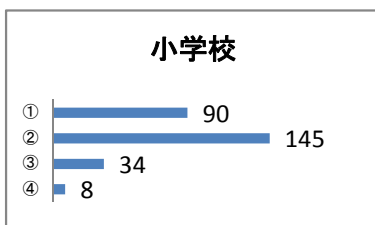
①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



○運営委員会や職員会議について、以下のことが必要だと思いますか。

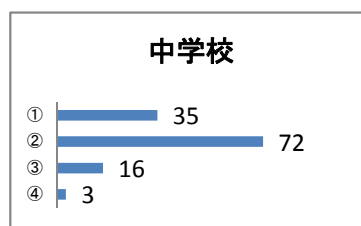
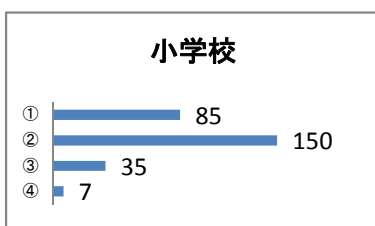
・充実した運営委員会となるよう議題をもっと早めに示す必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・運営委員会で主要主任等が提案する機会を増やす必要がある。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



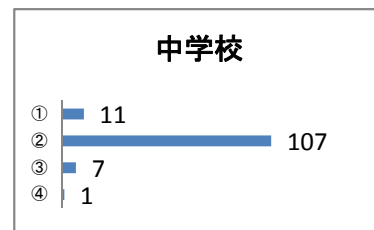
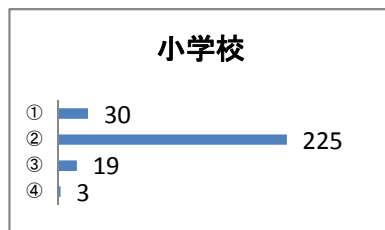
【目標の共有による家庭や地域との協働の徹底】

○学校が保護者地域住民と話しあう下記内容についての機会は、「時々ある」が8割。  
 ・重点目標や達成指標、重点的取組内容について  
 ・全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力調査の結果や改善策について  
 ・学校の生徒指導上の課題について  
 ○保護者や地域住民が、学校で児童生徒や授業の様子を見る頻度は、「学期に数回」が最も多い。  
 ○学校の目標の達成のために、家庭や地域と協働する上で特に必要なことは、「保護者や地域住民に児童生徒や授業の様子をもっと見てもらい、学校への関心を高めてもらう」ことや「保護者や地域住民と連携することについての教職員の意識を高める」ことだと校長は考えている。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

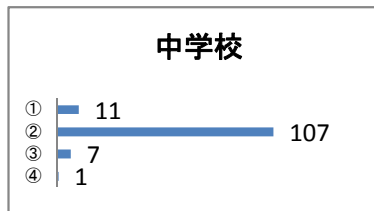
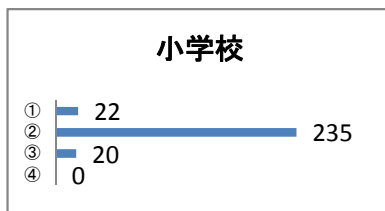
○重点目標や達成指標、重点的取組内容について、保護者や地域住民と話し合う機会がありますか。

①	よくある
②	時々ある
③	ほとんどない
④	ない



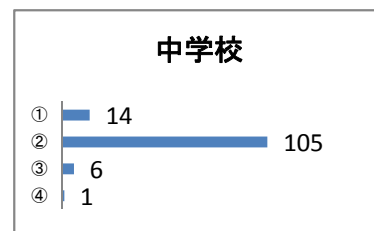
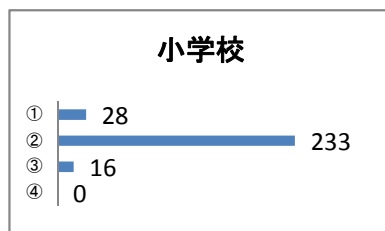
○全国学力・学習状況調査や全国体力・運動能力調査の結果や改善策について、保護者や地域住民と話し合う機会がありますか。

①	よくある
②	時々ある
③	ほとんどない
④	ない



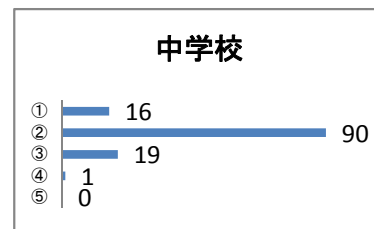
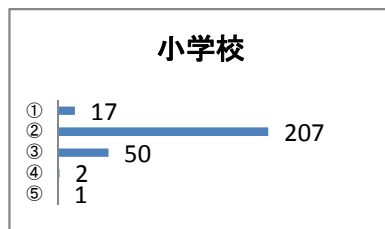
○学校の生徒指導上の課題について、保護者や地域住民と話し合う機会がありますか。

①	よくある
②	時々ある
③	ほとんどない
④	ない



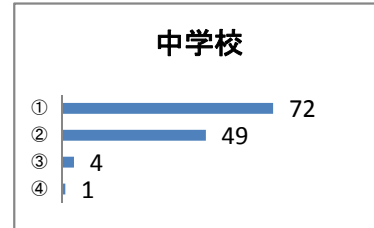
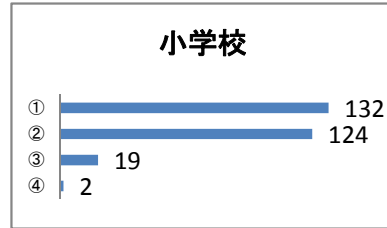
○保護者や地域住民が、学校で児童生徒や授業の様子を見るのがどれくらいありますか。

①	年に数回
②	学期に数回
③	月に数回
④	毎週数回
⑤	毎日



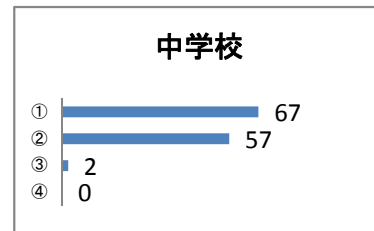
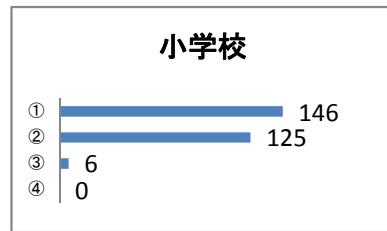
○学校の目標の達成のために、家庭や地域と協働する上で、以下のことが必要だと思いますか。  
 ・保護者や地域住民に児童生徒や授業の様子をもっと見てもらい、学校への関心を高めてもらうことが必要である。

①	とても思う
②	ある程度思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



・保護者や地域住民と連携することについての教職員の意識を高めることが必要である。

①	とても思う
②	ある程度思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



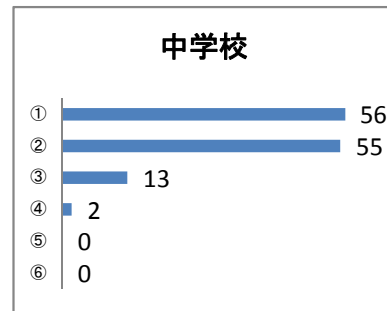
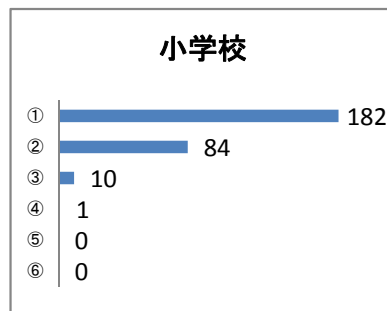
【目標達成に向けた組織的な学力・体力向上(授業改善)】

○校長の授業観察の頻度は、「ほぼ毎日」あるいは「週に2～3日程度」がほとんどで、特に小学校では「ほぼ毎日」の学校が6割以上ある。  
 ○校長の教員に対する授業での指導内容に関する具体的な指導の頻度は、「週に数回」が最も多い。  
 ○他の教員の授業観察を行い、必要に応じて指導・助言を行っている教務主任から行っていない教務主任まで、学校によってばらつきが大きい。  
 ○言語活動を通じて、思考力・判断力・表現力を育成する授業に、全ての教員が取り組んでいるかについて「とてもそう思う」とする学校が4割程度、「ある程度そう思う」とする学校が6割程度。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

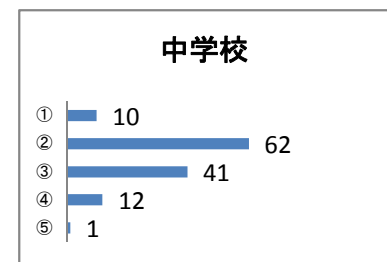
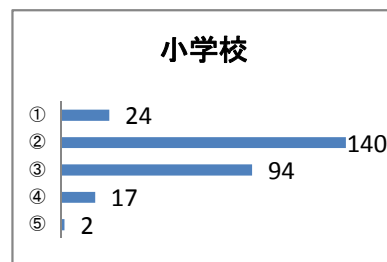
○校長として、どれくらいの頻度で授業観察を行っていますか。または、行う予定ですか。

①	ほぼ毎日
②	週に2～3日程度
③	月に数日程度
④	学期に数日程度
⑤	年間に数日程度
⑥	ほとんど行っていない



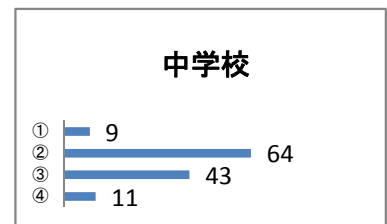
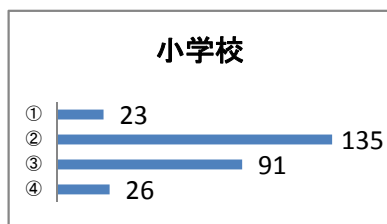
○校長として、どれくらいの頻度で教員に対し授業での指導内容に関する具体的な指導を行っていますか。または、行う予定ですか。

①	毎日
②	週に数回
③	月に数回
④	学期に数回
⑤	年間数回



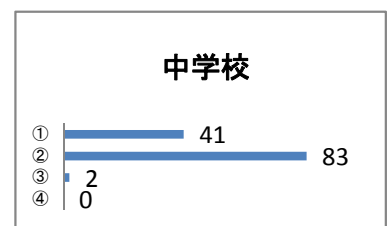
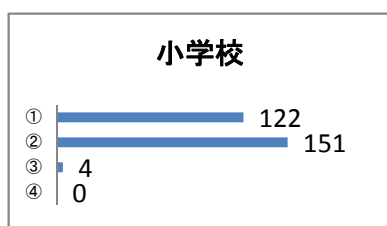
○教務主任として他の教員の授業観察を行ない、必要に応じて指導・助言を行っていますか。(教務主任)

①	行っている
②	ある程度行っている
③	あまり行っていない
④	行っていない



○児童生徒同士を話し合わせる、発表させるなどの言語活動を通じて、思考力・判断力・表現力を育成する授業に、全ての教員が取り組んでいると思いますか。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



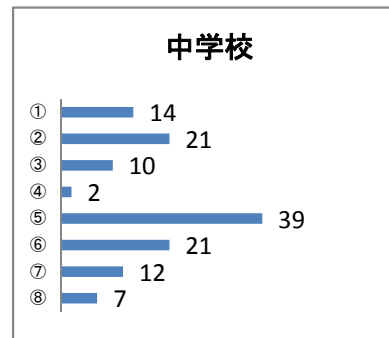
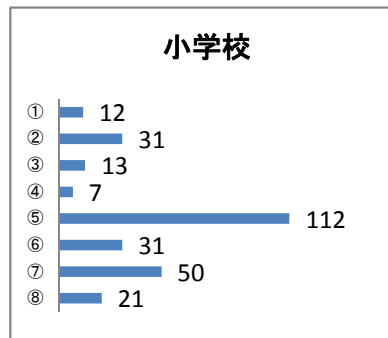
【目標達成に向けた組織的な学力・体力向上(学力調査の活用、カリキュラム・マネジメント、学力向上会議)】

- 全国学力・学習状況調査及び大分県学力定着状況調査の結果分析は、教務主任が中心となっている学校が最も多い。
- 全国学力・学習状況調査及び大分県学力定着状況調査の結果分析についての調査該当学年や調査対象教科以外の教員の関りは、「とても関わっている」学校が小学校で半数程度、中学校で3割程度。
- 各種学力調査(市町村独自調査を含む)の分析結果から得た課題を解決するための具体的な取組(内容・方法・取組期間、ゴールイメージ等)を全ての教職員が共通理解しているという学校がほとんど。
- 教育課程の改善の頻度は、年1回から年3回以上まで、学校間でばらつきが大きい。
- 学力向上会議は、年間「2回」がほとんどで年間「3回」以上という学校も1割以上ある。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

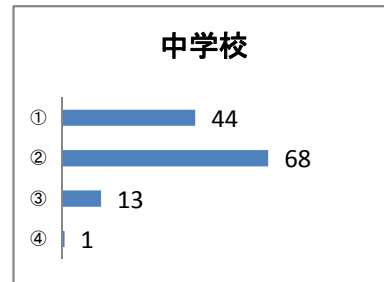
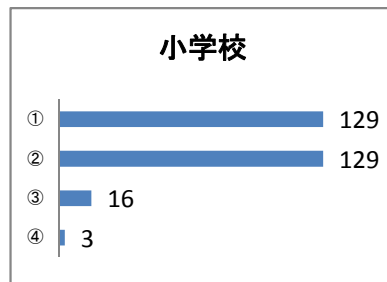
○全国学力・学習状況調査及び大分県学力定着状況調査の結果分析は、誰が中心となって行っていますか。

①	校長
②	教頭
③	主幹教諭
④	指導教諭
⑤	教務主任
⑥	研究主任
⑦	学年主任
⑧	その他



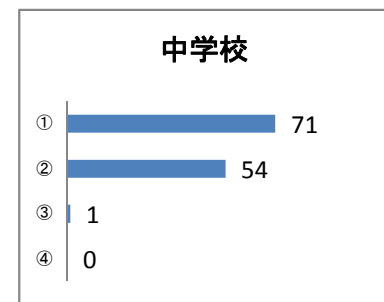
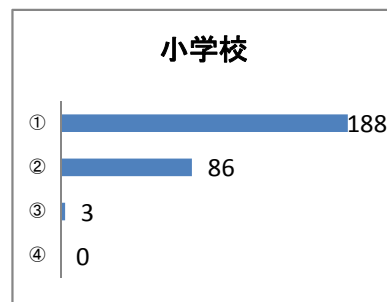
○全国学力・学習状況調査及び大分県学力定着状況調査の結果分析は、調査該当学年や調査対象教科以外の教員も関わっていますか。

①	とても関わっている
②	ある程度関わっている
③	あまり関わっていない
④	関わっていない



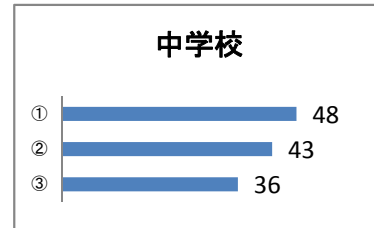
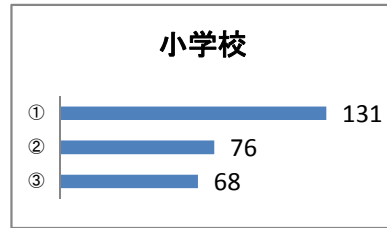
○各種学力調査(市町村独自調査を含む)の分析結果から得た課題を解決するための具体的な取組(内容・方法・取組期間、ゴールイメージ等)を全ての教職員が共通理解していますか。

①	全員が理解している
②	ある程度の教職員が理解している
③	あまり理解していない
④	理解していない



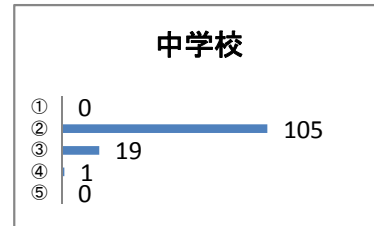
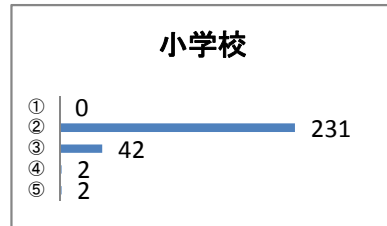
○教育課程の改善をどれくらいの期間で行っていますか。(教務主任)

①	年1回
②	年2回
③	年3回以上



○学力向上会議は、年間何回開催していますか。

①	1回
②	2回
③	3回
④	4回
⑤	5回以上





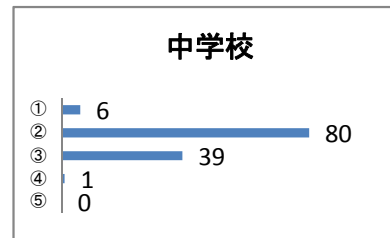
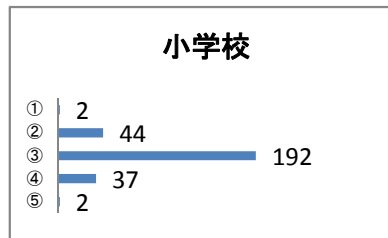
【目標達成に向けた組織的な学力・体力向上(校内研究)】

○校内研究の状況は以下のとおり。  
 ・開催頻度は、小学校では「1月に2～3回」、中学校では「1月に1回」が最も多い。  
 ・1回の所要時間は「1時間～1時間半」が最も多い。  
 ・研究主任とともに教務主任も中心となって推進している学校が半数近く。  
 ・ほぼ毎回ほとんどの教員が参加している学校がほとんど。  
 ○校内研究のテーマは、①「思考力・判断力・表現力等の育成」、②「コミュニケーション能力の向上」、  
 ③「基礎的・基本的な知識・技能の習得」の順に多い。  
 ○昨年度の校内研究の成果を本年度の教育課程編成に「しっかり反映した」学校が4割程度、「ある程度反映した」学校が6割程度。  
 ○校内研究の内容が、自校における教員の授業改善に反映されているかについて「とてもそう思う」とする学校が6割程度、「ある程度そう思う」とする学校が4割程度。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

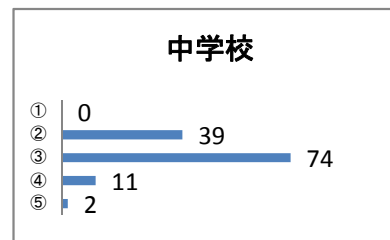
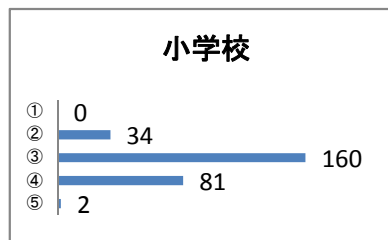
○校内研究をどれくらいの頻度で行っていますか。

①	1月に1回未満
②	1月に1回
③	1月に2～3回
④	1月に4回
⑤	1月に5回以上



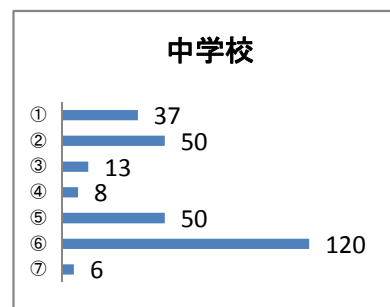
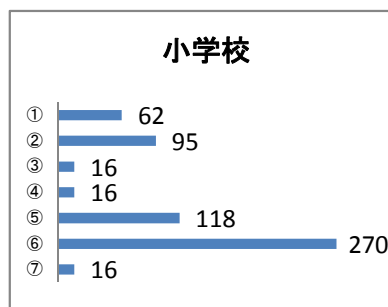
○校内研究の1回の所要時間は平均してどれくらいですか。

①	30分未満
②	30分～1時間
③	1時間～1時間半
④	1時間半～2時間
⑤	2時間以上



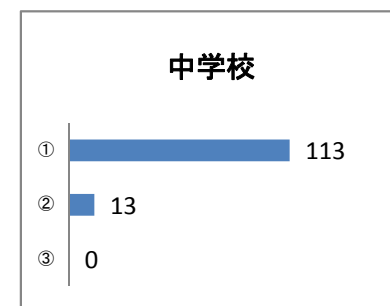
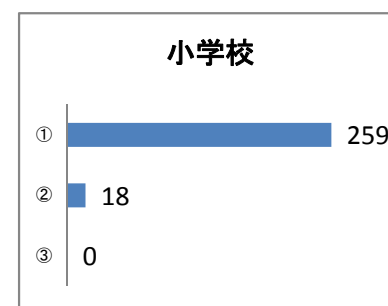
○校内研究は誰が中心となって推進していますか。※複数回答可

①	校長
②	教頭
③	主幹教諭
④	指導教諭
⑤	教務主任
⑥	研究主任
⑦	その他



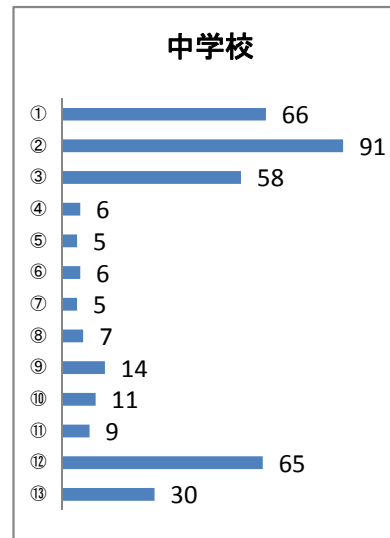
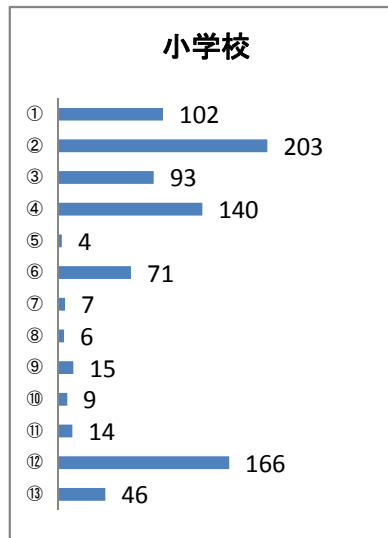
○校内研究に参加する教員の範囲を教えてください。

①	ほぼ毎回、ほとんどの教員が参加
②	ほとんどの教員が参加することあれば、一部の教員のみ参加することもある
③	ほぼ毎回、一部の教員のみが参加



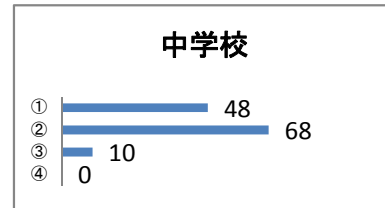
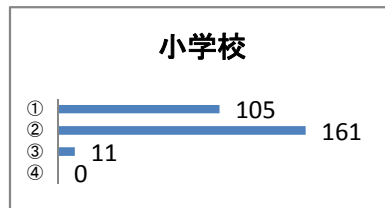
○本年度の校内研究のテーマを教えてください。※複数回答可

①	基礎的・基本的な知識・技能の習得
②	思考力・判断力・表現力等の育成
③	学習意欲の向上
④	国語科に関すること
⑤	社会科に関すること
⑥	算数・数学科に関すること
⑦	理科に関すること
⑧	英語科に関すること
⑨	総合的な学習の時間に関すること
⑩	特別活動に関すること
⑪	生徒指導、教育相談に関すること
⑫	コミュニケーション能力の向上に関すること(伝え合う、話す・聞く等)
⑬	その他



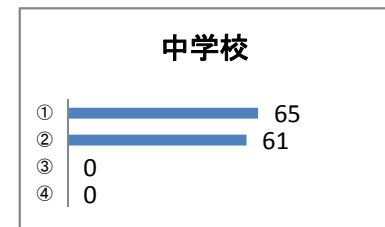
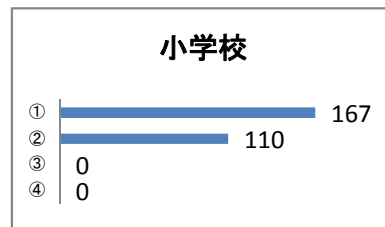
○昨年度の校内研究の成果を本年度の教育課程編成に反映しましたか。

①	しっかり反映した
②	ある程度反映した
③	あまり反映しなかった
④	反映しなかった



○校内研究の内容が、自校における教員の授業改善に反映されていると思いますか。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



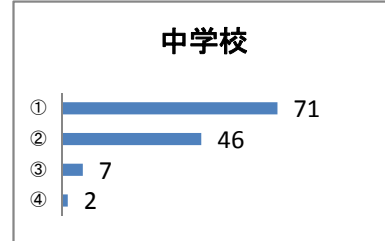
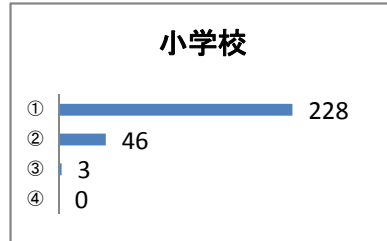
【目標達成に向けた組織的な学力・体力向上（体力向上）】

○「一校一実践」を学校全体の取組としている学校がほとんど。  
 ○児童生徒の体力課題を焦点化し、その課題解決につながる「一校一実践」を行っている学校は、小学校は大半、中学校は半数程度。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

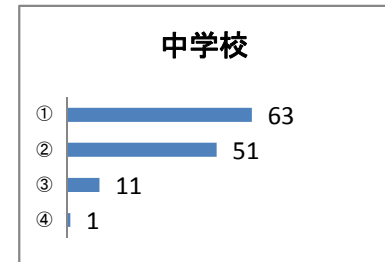
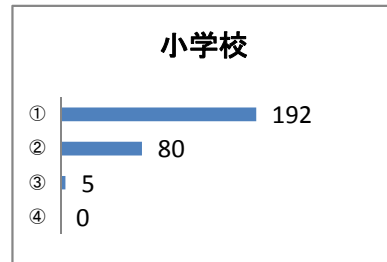
○「一校一実践」を学校全体の取組としていますか。

①	している
②	ある程度している
③	あまりしていない
④	していない



○児童生徒の体力課題を焦点化し、その課題解決につながる「一校一実践」を行っていますか。

①	行えている
②	ある程度行えている
③	あまり行えていない
④	行えていない



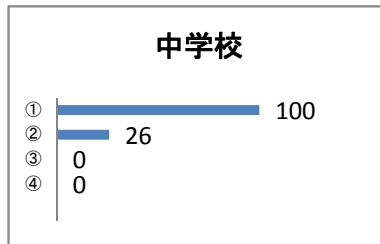
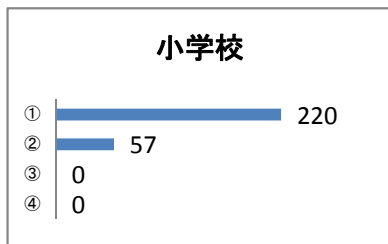
【組織的な生徒指導の取組】

○学校全体で、いじめの早期発見・早期対応に取り組んでいるかについて「とてもそう思う」とする学校が8割程度。  
 ○不登校の予兆があった際、全ての教員が統一された対応を行うことができているかについて「とてもそう思う」とする学校が6割程度。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

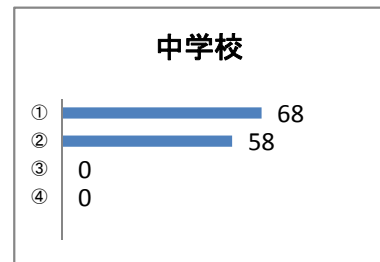
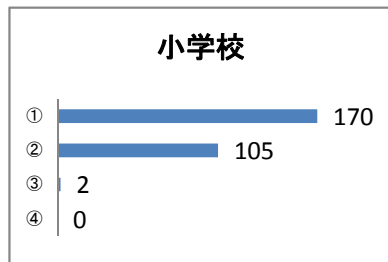
○学校全体で、いじめの早期発見・早期対応に取り組んでいると思いますか。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



○不登校の予兆があった際、全ての教員が統一された対応を行うことができていると思いますか。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



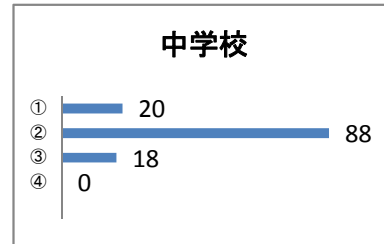
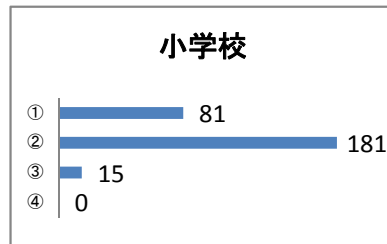
## 【教職員の健康管理】

○教職員の健康管理の充実に組織的に対応しているかについて「とてもそう思う」とする学校が4分の1、「ある程度そう思う」とする学校が7割程度。

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

○衛生委員会等の活動を中心に、教職員の健康管理の充実に組織的に対応していると思いますか。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない



**【県教育委員会の推進方策について】**

○9割の校長が「大分の教育は、より良くなってきていると思う」と回答。

○上記理由（自由記述による回答を集約）

（目標達成に向けた組織的な学校運営）

・教職員の学校運営への関わりが明確化され、一人一人が学校教育の大切な一員としての責任感と自覚が増した

・組織的な取組により、学力向上・体力向上等の学校教育課題が目に見える形で達成されつつあるので、やりがいを感じている

・学校が組織的に動くことでばらばらだった教員の意識を校長の経営方針へと導くことができると心から思う。大分の教育の方向性は間違っていないと思う。何より、全職員が自校の課題は何か真剣に向き合うようになった

など、目標達成に向けた組織的な学校運営により、教職員の意識改革や学校改善が図られているという趣旨の回答（小：144校、中：54校）。

（学力・体力の向上）

・具体的な授業改善の取組が広がり、学力調査結果の数値も成果として表れてきた

・教職員の意識や学校の取組が組織的になり、学力・体力の向上が結果として表れてきた

など、各種学力調査の結果や体力・運動能力調査の結果が向上しているという趣旨の回答（小：102校、中：47校）。

○今後、目標達成に向けた組織的な取組を一層進めるに当たって、県教育委員会に期待すること

（自由記述による回答）

・管理職や教務主任のみならず、主要主任等への研修の機会を充実してほしい。

・効果的な学校の取組事例の紹介や、先進地研修を行ってほしい。

・出張が増えている。しっかりマネジメントを行うためにも会議や報告書等を精選してほしい。

・今後も、学校現場との意思疎通を図るとともに、具体的な指導を継続してほしい。

・主幹教諭や学力向上支援教員の配置をはじめ、教職員の配置を充実してほしい。

・目標協働達成モデル校を拡充するなど、学校・家庭・地域が協働する取組を充実してほしい。

・一貫した方針のもと、今後も芯の通った学校組織の推進を継続的に行ってほしい。 など

※「教務主任」の回答については()書きで質問項目に記載している。表記のないものは全て「校長」の回答である。

○大分の教育は、より良くなってきていると思いますか。

①	とてもそう思う
②	ある程度そう思う
③	あまりそう思わない
④	そう思わない

